

「近代によみがえる古代神話」

(日本美術編)

2020年度の館長講座のテーマは「神話」です。これを選んだのは、2019年度のテーマだった「アール・デコ」に、ギリシャ神話の神々が出没していたからです。アール・デコといえば、機械時代の芸術のはずなのに、なぜそこに古代の神々、とくに女神が居残っていたのか不思議でした。調べてみると、日本美術でも同じような現象が起きていました。

そこで古代神話の神々が、近代以降の芸術家の靈感源となりえた理由を知りたくなりました。女神たちの復活は、芸術家個人の出来事だったのでしょうか。それとも近代社会の主人公である市民階級（ブルジョワジーたち）や、その後の私たちにとっても必要なことだったのでしょうか。これらを考えてみようと思います。まずは日本美術の方から。

第1回：2020年10月21日（水） 14:30～16:00

想像の国民文化

本田錦吉郎、山本芳翠、青木繁の洋画

古事記と日本書紀と民間信仰に登場する、神々と英雄たち

第2回：2020年12月2日（水） 14:30～16:00

民間信仰 1

月岡芳年と国芳の錦絵

民間信仰に登場する、神々と英雄たちの冒険譚

第3回：2020年2月3日（水） 14:30～16:00

民間信仰 2

ナセル・ハリリが蒐集した金工品と漆工品

古事記と日本書紀に登場する神々、英雄譚、そして古代中国の神々

第2回 民間信仰 1

概要

- I 浮世絵の一派である歌川派の絵師たちは、それぞれ得意分野を開拓して流派を形成してきた。その祖である歌川豊春は「遠近法」を取り入れ、豊国は「役者似顔絵」で当たりを取り、国貞は「美人画」を専門としてきた。
- II それにつづく、^{くによし}国芳（1797-1861）（寛政9-安政5）と、^{つきおか よしとし}月岡芳年（1838-1892）（天保10-明治25）の「武者絵」と呼ばれる絵画には、同時代に生きた庶民が人生で知っておくべき知識や、生きる知恵となる処世訓がいっぱい詰まっていた。彼らの描いた武者たちの生きざまには、昔の奇想天外な物語という域を超えて、世間で偉大な人物だと思われるための要件が暗示されていたからである。

- III そういう点で、国芳と芳年の武者絵は、日本人の矜持を踏まえていたので、西洋人がギリシャ神話を心の拠り所にしてきたのと通じるところがあったが、それをさらに洗練させて、虚実ないまぜな出来事で、歴史観や人生観を語り出したのが芳年だった。彼は、「武者絵」を深めて、「叙事詩」に昇華させたということが出来るだろ。
- IV では、叙事詩に到達するまで、歌川派の絵師たちは、日本神話の主人公たちをどのように描いてきたのだろうか。日本神話の主人公としては、天照大神、日本武尊、神功皇后などがひんぱんに登場する。歌川派の絵師たちは、彼らの得意分野に合わせて、神々を描いてきた。
- V では、国芳と芳年は、神々をどう描いたのか。それは、国家神道の視点から見た神々の功績の表現だった。とくに、神功皇后が大きく取り上げられた。
- VI それは神功皇后が「三韓征伐」をしたという説が、明治時代には流布されていたからである。これには、歴史学的に見ると疑問点が多いようである。そもそもその年代や、三韓とはどこのことであるのかが分からない。広開土王碑の発見によって、少し明らかになってはきたが。
- VII しかし明治政府や当時の庶民は、歴史に自分の見たいものを見ようという信念がつよかった。その結果、明治の紙幣、切手には、キヨッソーネが原判彫刻した神功皇后像が使われることになった。
- VIII また尋常小学校用の国定教科書（国史）にも、神功皇后の事績は記述されることになった。

画像リスト

- ① 歌川豊春（1735-1814）（享保 20-文化 11）《浮絵和国景跡京都三拾三軒堂之図》、18c 後半
歌川豊春は歌川派の祖で、「透視図法」を浮世絵に取り入れた。
- ② 歌川豊国（1769-1825）（明和 6-文政 8）《早の勘平^{かんぺい} 尾上栄三郎》、『仮名手本忠臣蔵』より、1805（文化 2）
歌川豊国は「役者似顔絵」で名を売った。早の勘平は架空の浪士。腰元のおかるとの艶話（おかる勘平）がある。
- ③ 歌川国貞（1786-1865）（天明 6-元治 1）《五色花魁香 遊君呉竹 新妓玉琴》、1849（嘉永 2）、都立図書館
歌川国貞は「美人画」で名を売った。
- ④ 歌川国芳（1797-1861）（寛政 9-安政 5）《本朝水滸伝豪傑八百人之^{ひとり}一個 早川鮎之助》、1830s（天保前期）
歌川国芳は「武者絵」で名を売った。早川鮎之助は播磨の鮎川村に住んでいたが、貧乏だったので大きな板で築とし、鮎を捕ったという。
- ⑤ 歌川（安藤）広重（1797-1858）（寛政 9-文久 1）《大はしあたけの夕立》、名所江戸百景、1856-58（安政 3-5）
歌川広重「風景画」で名を売った。
- ⑥ 月岡芳年（1838-1892）（天保 10-明治 25）《武者^{ぶるい} 无類^{のみ} 野見宿禰^{のすくね} 当麻^{たいま} 蹴速^{のけはや}》

》

野見宿禰は、垂仁天皇の命により当麻蹴速と相撲をとるために出雲国より召喚され、蹴速と互いに蹴り合った末にその腰を踏み折って勝ち、蹴速が持っていた大和国当麻の地（現奈良県葛城市當麻）を与えられた。以後、垂仁天皇に仕えた。

⑦月岡芳年《雄略天皇 大日本史略図絵》、

⑧月岡芳年《月百姿 03 南屏山^{なんびやうざん}昇月》、1885（M18）

月岡芳年は「美人画」や「武者絵」を、「叙事詩」に昇華させた。

赤壁の戦いの前夜の曹操

⑨月岡芳年《月百姿 04 祇園まち》、1885（M18）

『仮名手本忠臣蔵』より、大石内蔵助に密書を届ける大石主税

⑩月岡芳年《月百姿 05 名月や暈の上に松の影》、1885（M18）

芭蕉の門人である宝井^{たからい}其角^{きかく}の句を主題にする

⑪月岡芳年《月百姿 08 月下の斥候》、1885（M18）

本能寺の変の後、山崎の戦いの前に羽柴軍を偵察する明智方の斎藤利三

⑫月岡芳年《月百姿 19 月輝如晴 梅花似照星 可憐金鏡転 庭上玉房声》、1886（M19）

若き菅原道真が読んだ漢詩を主題にする

⑬月岡芳年《月百姿 20 吼噓^{こんかい}》、1886（M19）

吼噓は明治時代の狂言『釣狐』の別名。老狐が、仲間を殺す獵師に止めるよう、僧侶に化けて説得する。

⑭月岡芳年《月百姿 25 山城^{おぐるす}小栗栖^す月》、1886（M19）

明智光秀を落ち武者狩りで討ち取らんとする小栗栖^{おぐるす}の農民

⑮月岡芳年《月百姿 38 鶏鳴山の月 子房^{しほう}》、1886（M19）

子房は楚の項羽に対立する劉邦の軍師。項羽軍を包圍して、味方の兵士に楚の歌を歌わせ、項羽を追い詰めた。

⑯月岡芳年《月百姿 41 銀河月》、1886（M19）

牽牛と織女の、年に一度の逢瀬。

⑰月岡芳年《月百姿 42 垣間見の月 かほよ》、1886（M19）

『太平記』より、塩谷^{えんや}高貞^{たかさだ}の妻・顔世^{かおよ}を覗き見する高師宣^{こうのもろのぶ}。

⑱月岡芳年《月百姿 50 淮水^{わいすい}月 伍子胥^{ごししよ}》、1887（M20）

伍子胥は春秋戦国時代の楚の武将。その影響力を危険視した君主の平王^{へいおう}から命を狙われ、敵対する呉に逃げた。漁師の姿で身を潜めている。

⑲月岡芳年《月百姿 98 姥捨月》、1891（M24）

『大和物語』や『今昔物語集』に出てくる棄老伝説を主題にする

⑳小林永濯^{えいたく}（1843- 1890）（天保 14-明治 23）《天之瓊矛^{あまのめぼこ}を以て滄海を探るの図》、1880年代半ば、ボストン美術館

天之瓊矛は、国産み神話に登場する矛。玉で飾った矛。矛は大地をつくるようにと別天神たちからイザナギ・イザナミへと与えられた。

㉑歌川豊国《岩戸神樂のはしまり 右・中央・左》、1850（嘉永 3）、国会図書

館

「役者似顔絵」風に描かれた天照大神、常世長鳴鳥をかかえた思兼^{おもいかねの}神、八百万の神々など。

- ②② 歌川国貞《岩戸神楽 部分》、1857（安政 4）
「美人画」風に描かれた天照大神
- ②③ 枝^{えだ}年昌^{としまさ}（春斎）《岩戸神楽ノ起頭》、1887（M20）、
枝年昌は芳年の弟子。天岩戸神話
- ②④ 歌川国芳《和漢^{なづらえ}準源氏 かがり火 日本武尊》
「武者絵」風に描かれた日本武尊
- ②⑤ 月岡芳年《日本武尊 武者无類》、1883（M16）
「武者絵」風に描かれた日本武尊
- ②⑥ 歌川豊国《神功皇后 瀬川路考》
「役者似顔絵」風に描かれた神功皇后。瀬川路考は歌舞伎俳優。屋号は浜村屋。
俳名は路考。1730年初めて江戸へ下った。1744年(延享1)に、極上上吉に位付され三都
随一の女方と立てられた。
- ②⑦ 歌川国貞《神功皇后と竹内大臣 御詠座敷幟ノ内》、V&A
- ②⑧ 歌川国芳《賢女八景 筑紫帰帆 神功皇后》
「武者絵」風に描かれた神功皇后
- ②⑨ 歌川貞秀（1807- 1879）（文化 4-明治 12）《神功皇后 三漢退治図》
歌川貞秀は五雲亭貞秀と号し、横浜絵で知られた。
- ②⑨ 歌川貞秀《三韓伐随就給之図 神功皇后》
- ③⑩ 歌川国芳《名高百勇伝 神功皇后》
- ③⑪ 月岡芳年《神功皇后と武内宿禰 新羅征伐前の釣り占い》
- ③⑫ 月岡芳年《神功皇后 大日本史略図会》、1879（M12）
- ③⑬ 兌換券千圓《日本武尊》、発行：1942（S17.4.20）、廃止：1946（S21.3.2）
- ③⑭ 改造紙幣壹圓《神功皇后》、原版彫刻：キヨッソーネ、発行：1881（M14）、
廃止：1899（M32）
- ③⑮ 旧高額五円切手《神功皇后》、1908（M41）
- ③⑯ 文部省国定教科書《初等科国史》、1885（M18）
- ③⑰ 文部省国定教科書《尋常小学日本歴史》、1911（M44）